

104-220

問題文

表

医薬品（一般名）	用法	剤形
ドネベジル塩酸塩	1 日 1 回内服	フィルムコーティング錠、口腔内崩壊錠、細粒、ドライシロップ、内服ゼリー、口腔内崩壊フィルム
ガラントミン臭化水素酸塩	1 日 2 回内服	フィルムコーティング錠、口腔内崩壊錠、内用液
リバスチグミン	1 日 1 枚貼付	経皮吸収型製剤
メマンチン塩酸塩	1 日 1 回内服	フィルムコーティング錠、口腔内崩壊錠

- 1. ドネベジル塩酸塩口腔内崩壊錠
- 2. ガラントミン臭化水素酸塩口腔内崩壊錠
- 3. ガラントミン臭化水素酸塩内用液
- 4. リバスチグミン経皮吸収型製剤
- 5. メマンチン塩酸塩口腔内崩壊錠

解答

問220：5問221：1

解説

問220

娘さんの将来の介護不安については、特に触られていませんが、どのようなアプローチがとれるのか、介護保険の範囲などから対応を考えてみたい設定です。

正常は、イ の方に行きます。これがアの方に行ってしまうのが誤嚥です。正常な嚥下の過程の最後は E です。誤嚥の過程の最後は D です。

正常な嚥下は、気道が閉鎖されてから、食べ物が移送されるのですが、この気道の閉鎖がうまくいかないパターンが誤嚥です。従って、誤嚥の過程に C は含まれません。ここまでで、正解は 2 or 5 です。

選択肢 2 と 5 の違いは B,C の順番です。図を見て考えると、咽頭喉頭部に送ってから、気道を閉鎖しては遅いのではないかと判断できるのではないのでしょうか。正常な嚥下の過程は C → B の順番です。

以上より、問220 の正解は 5 です。

問221

経皮吸収型製剤がコンプライアンス的に魅力的なのですが、過去の接触性皮膚炎を考えると避けたい剤形です。選択肢 4 は誤りと考えられます。

メマンチンについては、適応が 中度アルツハイマー型認知症～なので不適切と考えられます。選択肢 5 は誤りと考えられます。

誤嚥注意である点を考慮すると、内服ゼリーや口腔内崩壊フィルムといった、とろみが

ある剤形や、飲み込む必要のない剤形があり、同じ薬での剤形変更の選択肢が豊富である点から、ドネペジルが最適と考えられます。

以上より、問221 の正解は 1 です。